

MOD (Management of Design) と生産管理 - その3 - - 製品開発プロセスにおけるデザイン意思決定の早期化 -

Management of Design (MOD) and Operations Management (3)

- Front-loading of Design Decision Making in the Process of Product Development -

河原林桂一郎 (静岡文化芸術大学)

1. はじめに

今日、製品開発負荷が膨大となる情報・通信事業においては合弁や協業が加速度的に増大してきている。製品がコモディティ化すると同時に垂直統合型のビジネスモデルがアーキテクチャのオープン型化によって水平化し、日本の製造業から価格競争力を急速に奪っている。本考察は、日本が得意とした製品開発工程における「摺り合わせ」や「熟成」をデザイン開発の各プロセスで積極的に導入することにより、ハード・ソフトを融合させたデザイン活動につなげることの有効性に注目したものである。こうしたデザイン活動を推進する上でデザイン意思決定の分化（専門化）と統合化を戦略的に管理することがMOD(Management of Design)の概念をより有効なものとすると思われる。

2. デザイン意思決定の柔軟性と一貫性

携帯電話や市場に見られるように製造業において製品開発期間の短縮は、新製品開発や市場投入を早期に又はタイムリーに行えることを意味し、市場において戦略的に優位性と競争力を高める大きな力となる。通常企業における製品開発では、技術部門(研究・開発,設計,生産,品質管理),企画部門,営業部門など多くの組織が関与して進められるが、デザイン部門は製品開発プロセスの上流から下流へと各プロセスへ関わりあっているのが特徴といえる。かつてのようにデザインという工程が切り離されて存在できる状況ではない。特に設計～生産のデジタルデータがシームレス化するとデザイン部門の製品開発プロセスへの関わりはリアルタイムな対応を要求され、デザイン意思決定のタイミングが分散することになる。

デザインに関わる意思決定の対象も単に造形・色彩・模様といったハード面にとどまらず、コンテンツ,GUI,インタフェースといったソフト面,更にそれらを統合したトータルソリューションへと分化(専門化)と統合化が繰り返されており,各意思決定は,相互に依存すると同時に常に最新の状況への対応・更新が要求されている。MODではこうした柔軟性とコンセプトワークに代表される一貫性をマネジメントすることが命題ともいえる。

3. デザイン意思決定の早期化

デザイン意思決定は、分化(専門化)と統合化が同時進行並行型で進行するようになるとコンセプト段階での練り上げの度合いが後工程を左右する場合が多い。各プロセスを積み上げた累積型の意思決定のマネジメントはリスクを伴うので、早期に問題解決を行うことで開発負荷とリスク低減を図ることが必要である。従来デザイン部門によるデザイン意思決定は、デザインの表現である造形や色彩、模様などを決定する段階に質・量両面でピークを持っていると考えると図1の曲線のごとくその意思決定を上流にシフト化することにより問題の早期顕在化と問題解決が図ることが望まれる。問題解決の早期化のためには、過去の経験則や他事例の応用が有効であるが、ビジョンやコンセプトの明確化とその表現方法に、より多くの時間とリソースをかけることが有効である。

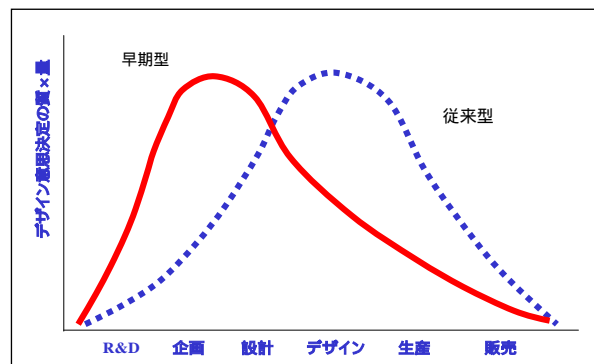


図1 デザイン意思決定早期化の曲線

4. まとめ

デザイン意思決定の早期化を図る時の問題点は、デザイン意思決定が製品開発プロセスの各ステップで前倒しになることによって日常的に積み上げられるデザイン活動の全体像が見えにくくなることにある。これは企業内デザイン部門のMODとして重要課題といえる。デザイン部門内のスタッフ部門である企画・研究・開発部門とライン部門との補完関係だけでなく、外部のデザインコンサルタントとの連携も有効な手段であり、今後の方向の一つと思われる。